

平成25年度 橘処理センター整備事業に係る地域住民と行政による検討協議会  
第16回 議事録

日 時 平成26年1月20日(月) 18時30分 ~ 20時00分

場 所 橘処理センター3階会議室

1 会長あいさつ

---

2 議事

(1) 第15回検討協議会議事録の確認

【概要】

事務局から、第15回検討協議会の「議事録」並びに「橘処理センター整備事業だより」について、内容の確認があり、それら2点について了承されました。

---

(2) 議題

ア 橘処理センター土地利用コンセプト(案)No.2について

【概要】

事務局から、前回の協議会の意見を踏まえて橘処理センター土地利用コンセプト(案)No.2について説明を行いました。その中で、橘処理センターの土地利用イメージやコンセプトについて確認されました。

【発言要約】

事務局： 【資料説明】

会 長： 前回の検討協議会で協議を行い、その意見を踏まえ事務局から半地下化という思い切った提案がされています。何か質問等ございますか。

会 長： ごみ焼却処理施設の建物の屋上利用はどうなりますか。

事務局： 市民プラザ通りに面している場所以外は、建物周りの敷地全体に屋根をかけるイメージなので、広場として利用できるようなスペースが創出できます。建物は既存施設に比べ大きくなりますが、大きくなる部分は屋根の下に入る形になるので、相対的には小さく見えるようになります。

委 員： 屋根をかけるイメージの部分は平らになり、市民プラザから標高差なく広場に入れるようになるのですか。

事務局： 入れるように考えています。

会 長： 橘処理センターの南側の入口は2か所になるのですか。

事務局： 現在、南西の道路に接する部分は閉鎖しているので入れませんが、建替えを機に整備をして通れるように考えています。

委 員： 資料のごみ焼却処理施設のところに書かれている「69」という数字は何ですか。

- 事務局： 海拔69mという意味です。海拔34mの地盤に高さが約35mの建物が建つのを予定しています。建物の最高高さは35mですが、建物全体が35mになるのではなく、ピラミッドのように高くなるほど小さくなる形を検討しています。イメージとしては王禅寺処理センターと同様になります。
- 委員： 通常時は広場に人を入れさせないですか。
- 事務局： 広場をどのように利用していくかはこれから検討していきますが、今はまず広い場所を確保していこうという考え方です。
- 会長： 谷戸の地形を利用して広場を創出するという画期的な提案だと思いますが、費用としてはどうですか。
- 事務局： ごみ焼却処理施設の建設は元々費用がかかり、数百億円規模になります。既存の橋処理センターの車路には屋根がかかっており、建替え後も騒音や臭気の問題で、既存施設と同様に屋根をかける必要があるため、それを敷地全体に広げたイメージになります。それらを考慮すると特段に費用がかかるわけではありません。
- 会長： 多機能的な要望に応えるためには面積が必要になり、このような計画になるということだと思います。

---

## イ 方法書の作成について

### 【概要】

事務局から、方法書の作成について説明を行いました。方法書がどのような図書で、どのような内容を記載していくのかが確認されました。

### 【発言要約】

事務局： 【資料説明】

会長： 環境影響評価として、新しい制度になったと思います。

事務局： 平成24年に条例改正がありまして、大きく変わった部分としては、環境配慮計画書の内容の拡充になります。従来は計画地がどのような土地なのかといった基本的な事項のみを記載した図書でしたが、橋処理センター整備事業では条例改正に伴い、計画段階においても予測・評価まで行っています。さらに、もう一つ重要なのが複数案についてです。従来の環境影響評価では決定した計画で手続が進んでいましたが、橋処理センター整備事業では環境配慮計画書で煙突高さや車両動線について複数案を示して、それに対して住民の方に意見をもらい計画を単一案に絞り込んで進めています。方法書では単一案について予測・評価を行っていきます。

会長： 環境配慮計画書と方法書で内容が重複している部分があり、理解が難しいところがあります。方法書は端的に言うと、どのような内容ですか。

- 事務局： 会長のおっしゃるとおり、環境配慮計画書と方法書では内容が重複している部分が多いです。環境配慮計画書との大きな違いは、複数案を絞り込み単一案に決定し、その単一案に対して詳細に予測・評価をしていくことです。方法書に記載する内容は、単一案に対して詳細な予測・評価をどのような方法で実施し、必要な環境の最新データを、どのように収集していくのかといった方法を定める内容になります。
- 会長： 環境配慮計画書の中にも方法や考え方が示されていると思うのですが。
- 事務局： 環境配慮計画書では、複数案を比較するため、最新のデータではなく、既存の資料などによる簡易的な予測・評価を示しました。方法書の次の段階の準備書では、橘処理センター整備事業の単一案のための最新データを収集し、より詳細な予測・評価を行っていきます。例えば、大気質の予測・評価としてコンピューターを使った詳細なシミュレーションを行い、排ガスの影響がどのようになるか数値解析を行っていきますので、その方法・やり方を今回の方法書に記載することになります。
- 委員： 環境配慮計画書では、簡易的にある程度の方法や考え方について記載しましたが、複数案を絞り込んで単一案に決定しましたので、方法書では単一案に特化してより詳細に記載する点が大きく異なります。ただし構成については、環境配慮計画書とほぼ同じ構成となります。
- 委員： 数値解析をした結果を方法書で示していくのですか。
- 事務局： 方法書は結果を示すものではなく、数値解析の手法などについて示していきます。
- 委員： シミュレーションのプログラムを誰が作るのか、どのような条件で行うのか、突発的な事項をどこまで組み込んだシミュレーションを行うのか、そういったことが焦点になると思います。誰がどのようにプログラミングを行うか教えてください。
- 事務局： シミュレーションソフトについては、橘処理センター整備事業専用には作成するのではなく、橘処理センターの地形や気象、ごみ焼却処理施設という特性に最適なシミュレーションソフトを選定し、数値解析を行っていきます。
- 委員： 数値解析を行う時に汎用性のものに地形や気象のデータを入れると思うのですが、地球環境が変化してきていることもあり、突発的な事項や異常気象の影響などをどこまで組み込むのですか。そこの設定が曖昧だと想定外のことが起き問題が発生してしまうので、シミュレーションを行う時にそれらも検討していただきたいと思います。
- 事務局： 1年間かけて現況の測定を行い環境データを揃えていきますが、川崎市には気象の観測所がありますので、過去のデータや文献などからどのように変化してきているかといったことも調べて検証を行いながら、シミュレーションを行っていきます。

- 会 長： 異常気象になってきており、台風などでも10年後はもっとひどくなるだろうといったことがあるので、それをどのようにシミュレーションに組み込むのか、30年先まで使用するのをごをしっかりとお願いしたいです。
- 委 員： 意見はわかるのですか、平常時のシミュレーションでいいと思います。台風の時の数値を聞いても意味がないです。20年、30年後のことはわからないです。
- 委 員： 子どもたちは20年、30年と暮らしていくので、それに則した形の安全対策を講じてもらいたいです。
- 委 員： 想定で数値を算出して、それに対して安全対策を講ずるのは不可能だと思います。
- 委 員： シミュレーションはできるはずです。
- 委 員： シミュレーションをしても意味ないと思います。
- 委 員： シミュレーションをして、どう守っていくのか検討できます。
- 委 員： 台風の時にはどこかに飛んでいってしまいます。
- 委 員： 10年前の雨量に比べ現在は増えてきているので、そのようなことも考慮する必要があると思います。
- 委 員： 30年先までこの地域に住む人のことを考えれば、行政として対策を講ずるべきだと思います。他にない、万全の対策を講じたごみ焼却処理施設の建替えをしていきたいと考えています。
- 委 員： 例えば雨水の問題ではゲリラ豪雨などがありますので、雨水調整池を作らなければいけないといったことがあります。そういったことを踏まえて、対策を講じた計画を立てていきたいと思っています。
- 会 長： 台風や大雨以外にも地震などといった、様々な想定できないことが起こる可能性があるので、設定できる範囲でシミュレーションをして、安全を第一に考えて計画を進めてほしいと思います。
- 委 員： 雨水調整池は大きなものを作るのですか。
- 委 員： 橋処理センターの敷地に降った雨が、一気に道路や河川に流れてしまっは困るので、ある程度の大きさの雨水調整池を作ります。また、雨水について再利用することも検討しています。

---

## ウ 環境現況調査の実施について

### 【概要】

事務局から、環境現況調査の実施について説明を行いました。現況調査の方法に対する意見があり、それらを反映させた調査方法を検討していくことが確認されました。

### 【発言要約】

事務局： 【資料説明】

- 委員： 降雨量については仮定でやるのですか。
- 事務局： 降雨量等については川崎市にデータがあるので、橘処理センター整備事業で新たに現況調査を実施するのではなく、そちらを活用していきます。
- 委員： 地盤が新たにできると雨水が地下に浸透しなくなり、雨水の貯水等を考えないといけないです。
- 事務局： 季節の変動やゲリラ豪雨等のデータもありますので、それらを考慮しながら検討していきます。
- 委員： 環境現況調査地点をどのように選定したのですか。風向の影響で大気の最大着地濃度地点がどこになるか、ある程度予測できると思うのですが、それは加味されていますか。
- 事務局： 一点目として、川崎市ではノウハウを持っています。直近で言いますと王禅寺処理センター、その前は浮島処理センターで同じような予測・評価を行っています。最大着地濃度地点がどこになるかある程度の予測はできており、それらを加味しています。さらに、橘処理センターではどうなのかといったことを環境配慮計画書で踏み込んで検討して、それを審議会に諮っています。大気の専門の先生が委員となっているので、審議会での意見も踏まえ環境現況調査地点を選定しています。
- 委員： 大気の調査地点は、最大着地濃度地点になる可能性が高い地点が選定されているということですか。
- 事務局： 環境現況調査はデータを取ることが目的で、そのデータを使いシミュレーションを行うことで実際の最大着地濃度地点がわかります。しかし、先程も言ったように、川崎市ではノウハウを持っていてある程度の予測ができるため、最大着地濃度地点が出現する可能性のある距離を考慮して地点を選定しています。
- 委員： ダウンドラフトなどの現象が起きなければ、直近ではなく周辺に拡散していくということですか。
- 事務局： そういった観点から、直近だけではなく周辺も調査地点に選定しています。
- 委員： 調査時期についてですが、悪臭調査については2日間×1回という回数では少ないと思います。悪臭が発生していない時期では意味がなく、専門家ではないので、どれぐらいの頻度実施するのが適切かはわかりませんが、2日間×1回では少ないと思います。
- 委員： 今まで悪臭の苦情はあるのですか。
- 会長： あります。
- 委員： 御意見がありましたので回数を検討します。また、悪臭が発生していない時に調査はしません。
- 委員： 調査の方法に客観性があるかどうかの問題で、客観性があると言えるだ

けのことをやっていただきたいと思います。

事務局：確かに悪臭の調査について回数が少ないかなというのがあるので、回数を増やす方向で検討します。客観性的な話で言うと、今までの橘処理センターや川崎市に寄せられている苦情を考えまして、夏場は臭気が一番強くなる時期なので選定しています。

委員：梅雨の湿度が高い時期や夏場の暑い時期などが考えられるわけなので、それらを加味するべきだと思います。

会長：大気的气象調査に関連することだと思うのですが、現在の橘処理センターの稼働はいつまでですか。

委員：平成27年の3月までです。

会長：それまでに調査は終えているということですか。

委員：終わる予定です。

会長：環境現況調査の現地見学会について具体的に日程が決まっていないということでしたが、どのように周知をして、どこで行われるのでしょうか。

事務局：考えられる時期としては8月または10月で考えています。具体的な日程が決まりましたら事前に皆様に報告をして、橘処理センターまたは周辺地域に集合していただき、見学していただきます。

会長：町内会を通じて周知するのですか。

事務局：事前に御説明させていただいて、町内会の回覧等で御協力をお願いしたいと思います。

委員：一般の方が見学できるのですか。

委員：できます。

委員：人数が集まると大変ですね。

委員：来てもらえれば嬉しいです。

会長：上層気象調査を行う時にバルーンを何回も放球しますよね。何でバルーンを飛ばしているかわからないと疑問に感じると思います。

事務局：上層の気象調査については1週間連続の測定を4季行う予定です。昼間でも夜間でも3時間に1回の間隔でバルーンを飛ばし、1日に8回放球します。それが1週間連続なので56回になります。バルーンは直径が約1.5mになり、周辺住民の目に付き疑問に思われる方もいると思うので、そういった観点からも見学会を開催したいと考えています。

会長：大気の調査地点をどういう観点で選定したのですか。

事務局：先程の話と重複しますが、浮島処理センターや王禅寺処理センターを建設する時に同じような予測・評価をしていて、それらのノウハウを基にどれ程の範囲が必要なのかある程度予測できました。橘処理センター整備事業の環境配慮計画書を作成した時に、過去のデータ等を踏まえて予測・評価をどのように行っていくか、踏み込んだところまで検討して作

成しています。また、審議会で大気の専門の先生に審議していただき、審議会での意見等を踏まえて調査地点を選定しました。

会 長： 橋処理センターで毎年、周辺の学校等で行っている大気調査のデータは含まれていますか。

事務局： データの量は多いほど正確な検証ができるので、既存のデータについても利用できるものについては積極的に利用していきます。川崎市の観測所のデータや文献等もあり、それを補完するものとして環境現況調査を実施していきます。

会 長： 橋処理センターの位置を考えて、優位性のある地点が選定されているということですか。

事務局： 根拠のない選定場所ではなく、正確な予測・評価を行えると考えられる地点を選定しています。

---

## エ 解体撤去工事におけるダイオキシン類対策について

### 【概要】

事務局から、解体撤去工事におけるダイオキシン類対策について説明を行いました。廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱に基づき解体撤去工事を実施していくことが確認されました。

### 【発言要約】

事務局： 【資料説明】

委 員： 高圧水洗浄した後の水の処理方法については、厚生労働省でガイドライン等を出しています。ダイオキシン類は非常に強毒な物質で、バグフィルターや関連設備にも存在しています。私が一番懸念しているのは、昨年度に粗大ごみ処理施設で火事があった時にダイオキシン類が飛散しているのではないかとということです。

委 員： 粗大ごみ処理施設で使用しているバグフィルターは、たんすなどを破碎した時に発生する粉じんなどを吸じんするためのものです。掃除機に入っているフィルターのようなイメージになりますのでダイオキシン類はありません。

委 員： 燃焼したガスなどをバグフィルターにかけることはないのですか。

委 員： それは粗大ごみ処理施設ではなく、ごみ焼却処理施設のバグフィルターになります。ごみ焼却処理施設にダイオキシン類が含まれるごみが入ってくることがありますが、850度以上で燃焼することによりダイオキシン類を分解しています。今までは電気集じん機で排ガスの温度が300度ぐらいになり、ダイオキシン類が再合成していました。ダイオキシン類が問題になってから、バグフィルターであればダイオキシン類が再合成しないということがわかっているので、現在の橋処理センターもバ

グフィルターになっています。焼却灰のダイオキシン類の濃度について、毎年分析をしています非常に低レベルな値で、排ガスについてもほとんど検出されません。また、バグフィルターは4年程度で寿命になり、その時もバグフィルターに付着した焼却灰の分析を行い処分します。解体工事は、その大掛かりなことをごみ焼却処理施設全体で行うイメージになります。

委員：ダイオキシン類が飛散している場所というは誰がわかるのですか。例えば付着している、していないというのが簡易的な方法ではわからないと思います。焼却炉の立ち上げ、立ち下げの時には燃焼温度が下がると思います。

委員：過去には自然のままに温度を下げていましたが、ダイオキシン類の問題が出てきてからは、バーナーを点けて燃焼温度を管理しながらごみを燃やし切ります。すべてごみが燃えきった後に炉内の温度を下げています。焼却灰についても分析を行っています。

委員：塗料などにもPCBが含まれているので、そういったことを加味しながら対策を講じて欲しいです。また、住民だけでなく、働く方にも配慮して欲しいと思います。

委員：詳細な施工方法については、解体撤去を行う業者が決まりましたら御報告したいと思います。

会長：廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱というのがあるそうなので、その要綱に基づき実施してもらいたいと思います。

委員：昔はダイオキシン類が出ていたと思うのですが、土壌についても調査を行いますか。

委員：ダイオキシン類の問題が出た時に、黒須田川や針葉樹、ごみ焼却処理施設で働いている労働者の血中濃度などを調べましたが、基準を超過するような数値は検出されていません。

委員：解体工事が始まる前に、環境影響評価とは別に、土壌調査を実施していきます。

委員：周辺地域でも土壌調査を行いますか。

委員：橘処理センターの敷地内で実施します。

---

### (3) その他

#### 【概要】

委員から、緑の管理について意見がありました。その中で、今後の整備事業の中で検討していくことが確認されました。

#### 【発言要約】



- 委員： 緑化してかなり緑が増えるが、管理をしていく問題で、整備費用は確保していただけるのですか。
- 委員： 現在整備中のリサイクルパークあさおについても、緑を多く配置する計画で、整備費用についても確保して維持管理をしていきます。橘処理センターについても同様に維持管理をしていく予定です。
- 委員： 現在の橘処理センターは草刈りを行わないので、歩道の雑草がかなり伸びています。
- 委員： 橘処理センターの門の前の歩道は橘処理センターの敷地ではありませんが、年に数回は草刈りを行っています。
- 事務局： 橘処理センターの建替え計画が具体的に進んだら、歩道を整備してほしいといった意見もありますので、建替えを機に整備していくことも検討しています。
- 委員： 道路公園センターとの協議を行っていきたいと思います。
- 委員： よく引き合いに出る王禅寺処理センターですが、橘処理センターの建替え後には、王禅寺処理センターよりすべて良くなると期待しているのですが、見たことないので見学会など開催はしないのですか。
- 委員： 見学会を計画しますので、よろしくお願いします。
- 会長： 他になければ、これで終わりにしたいと思います。